

荒町商店街がまちづくり

シンポジュームの舞台

去る十一月二十七日(土)

荒町商店街の全体を使って町づくりのシンポジュームが行われ三百人もの方々が荒町を訪れました。この会議は、宮城県がお世話をしている町づくり協議会の主催で、幸五郎はこの会の仙台支部長を努めている。今年の六月、何処で年一回の大会を何処でやるか、市町村の役場の職員さんが集まって審議をした。七ヶ浜、塩釜、松島いろいろ候補があがったがどこもダメ。残ったのが仙台市とということになった。仙台といえば荒町で、と言う事に内心荒町がいいとは思っていましたが支部長の特権乱用は慎まねばなりません。しかし、皆さんが荒町がいいと言う事になりました。さて皆さん何百人も集まるところがこの町にありますか。ないんですね。終わったあと一杯飲むパーティーも必要です。そこで考えたのは今ある施設を活用することでした。全体会は、荒町小、分科会は、市民センター、宮城文化服装専門学校そして昌伝庵、一杯のむところは何処にしますか、市民センターでやれない事もないのですがお世話している人に頼んでやることは後片付けがしんどい。そこで考えたのは町内の居酒屋と喫茶店でした。何十人も入る、大きい飲み屋はありません。各店に抽選で割り振ることで解決しました。さてそれからが大変でした。まず会場を確保しなければ成りません。何とかなりました。

次は少ない予算で有名なタレントに来てもらいたいと色々考えましたが適当な方は何十万とギャンブルがかかります。ギャラのかからない、地元の人、タレントに来てもらうのが一番と、三女高、東北高校、荒町小、CSミニデジタルに出演交渉をする事になりました。荒町は音楽にこだわってまちづくりをしてきました。特に今年の春に行った、ひびき愛「フナー」は大成功でした。福井文彦さんという作曲家は荒町出身です。この方にスポットを当てて全体会のシンポルイベントとしました。今三十年前に亡くなった福井文彦さんがこの町によみがえりました。会場の皆さんに荒町商店街が音楽でまちおこしをしていますという訴え方を骨組として仙台弁で「見でんのしゃボラ」そこにアツペツチャ公開します

まちづくりの特許権」として、全体会では、荒町で行った音楽のまちおこしを披露し、その後三ツの分科会は「商店街活動」なにもなかった田舎のまちおこし、「映像で見る荒町」をそれぞれ市民センター、昌伝庵、宮城文化服装専門学校に別れて勉強しました。そこが終わったら毘沙門さん前に集まってフルートの演奏とこどもたちのストリーダンスを見て五時から各居酒屋や喫茶店等七箇所に分散して交流を深めました。それぞれ時間を超過で楽しく町おこしの話して盛りあがりました。一時から始まって八時過ぎ迄荒町は参百人の人が荒町の町内を

かけめぐりにぎわいが出来大成功に終わりました。

荒町のまちづくり
シンポジュームは
何故成功したか

企画がよかった

お金は約六十万円。少ないお金をうまく活用した。看板は幸五郎が書いた。出演者のおにぎりはボランティアで商店街の婦人がつくった。ポスター、チラシは県の職員さんの手づくり、企画は幸五郎と県の末永君と二人で土台をつくった。

アーティスト庄子陽さんが、まちの中をかけめぐった庄子さんは年賀八カキのイラストを書いたり、土樋のアートのまちおこしをしたりした芸術家。彼に約二ヶ月に亘って荒町の中を、こども、学生を中心に映像を撮ってもらってほんとのボランティアで動いてもらった。庄子さんって不思議な人です。

布の端ギレでまちを飾ったはぎれを買ってきたり、宮城文化さんからキレをもらって来て、それに絵を書いたり、キイロ布地を黄色いハンカチ風にしたり町全体にアートに仕上げた。

県の職員がすばらしかった窓口は県の地域振興課。ここ職員さんが一生懸命やってくれました。彼らはパソコンが出来、会議のついでに書類造り、補助金の引き出し、出演者の交渉など時間外までお世話をしてくれました。こういっお

役人と腹を割って協力するところが大事、商人は行動力はあるが頭がない。

幸五郎ががんばった

自分の口から云うのはダメなことだが、一番頑張ったのは、私でした。キャッチフレーズ看板、企画、それに、来る人をどうして集めるか、手紙を書いたり、電話をしたり、お店に来た人に勧めたり、幸五郎の人脈を使って、働きかけをしました。約一ヶ月店番をしながら十一月二十七日に向かって声をかけました。努力すれば結果はでる。その日当日は晴れでしたが強風が朝から吹いていました。幸五郎は朝五時に起きて、残っていたチラシ五百枚を三時間で配りました。

まちづくりは情熱だ

このイベントはたった二人の情熱とアイディアからはじまった。そして今まで培ってきた人と人の繋がりを、どういっように紡いでいくか、そこを貫くのが馬鹿馬鹿しい情熱しがあります。当日参加出来なかった人も誰かが必ず見ていてくれます。それがまちおこしといっつものです。

幸五郎タレント田尻に行く

前々号で紹介しましたが東北放送テレビの発見グラッチェのテレビポーターになりました。年をとってなにやってもあがらなくなったところをテレビ局に認められて出演の依頼が来たのです。支倉学園、三越の社員食堂、アサヒビールの部長さんの弁当、今回は、田尻の新妻の昼ごはんを訪れて来ました。朝八時半まだ私の店が開店前に私を迎えに来ていました。スタッフは私をふくめて六名、運転手は荒町小

学校卒業のあんちゃん。カメラマンは石垣さん。私とは長いお付き合い。私のカメラ演技がうまいので師匠と私を呼んでくれる。アナウンサーは大徳寺さん。今年大学を卒業したばかりのニユーフェイス、東部道路松島経由約一時間、笹嶽様ののだけさま(が見えて来た。ついたところはその山のふもとのお百姓さん。お家は、新築したばかりの二百坪、総二階の檜づくり、仙台から新妻を一週間前に連れて来たばかりの若いダイナミックな若旦那。聞くところによると鳴瀬の海岸のサーフィンで見つけたという。ほっそりした私より背が大きくかわいい方、お百姓さんがつとまるかしらと、私の妻が反対に百姓から町の幸五郎に嫁入りした頃を思い出してしまった。映像の頭は田んぼの真中で幸五郎はデタラメ節で奥州涌谷ののだけさまよ」と歌うというよりは怒鳴っているところからはじまった。今日の料理は畑から大根とネギをひっこ抜いているところを撮りました。次は台所で新妻と義母さんと二人で仲良く料理をつくるころ撮りました。いも煮とほつれん草のおひたし、今取って来たばかりのふるふき大根、それにゴンポの煮付け、幸五郎が口を出して、ごはんは独身男性の心をつかむのが一番いいました。これが受けました。

出来上がって若夫婦と古夫婦と私とアナ女と一緒にすわって手を合わせていただきますと楽しい昼ごはんがはじまりました。私は食卓をながめて皆ここでとれたものだけだねといいました。よめさんはお肉だけ買って来ました。この言葉はテレビに流れたはずです。

テレビを撮りながら食事はたべたそらがしません。食事半分で色紙に字を書くことが私の本日最大のしごとです。さて何と書くつか、ここが幸五郎思案どころ。新居の座敷に座ってここからのだけさんがドーンと鎮座しているのが見えます。山は人が育てるといつことばあります。この黒澤家の人々はこの山の霊気とご利益で代々続いて来た幸五郎直感しました。早速筆を取って書いたのが「**の獄さん**」の**利益がしみじみする妻の味**」という文章でした。みなさんから感たんの声があがりました。無事収録が終って帰ろうとしたら座敷でおすし屋さんに来て寿司を握っていました。誰がたべるのか不思議そうに眺めていました。何とスツツに「ごちそうするために沿からわざわざ職人さんをよんで来ましたのでした。番組の中でちよつと食べてしまったのであまりお口の中に入る余地はありませんでした。お言葉にあまえて三皿もたいらげてしまいました。小春日和で田んぼの真中で歌をうたったり、うまい物食べてテレビに映ったり幸五郎どうなっているのか帰途反省しながら荒町にもどりました。

人生最期の同期会

前号で紹介しましたが十二月十三日、私の母校県工の同期生の集まりを仙台ホテルでしました。参百人いたのですが半分の方が亡くなり、五十人が行方不明、百人の方に案内を出してやっと二十五人来てくれました。元市立病院神経部長の浅野弘毅先生の痴呆症にならない話しを聞きました。同期会でこんな講演会

をするのは恐らく無いでしょう。先生のくだけた話ですっかり盛り上がりました。カルチャー教室が女ばかりで、男の年よりの参加が少ない。こんな人がぼけの予備軍になっています。皆さん今朝、夕べ何を食べたか思い出せませんか。

テレビ収録で

お正月なわづくりみる十二月十四日朝、同期会の一泊どまりで、やまぼうしを出発。友達と別れをおしみつつ十時。店に戻ったら、東北放送の中継車が待っていた。今日は燕沢の庄司さんのところの、お正月の飾りづくりを見て又ひと筆かかなくてはならない。何とかなるさと、車に乗り込んだ。庄司さんという農家でした。シャッターをバットあけたら昔の美人が十数人流れ作業で正月飾りを作っていた。エソこんな所で作っているのと正直ビックリしてしまった。わらをベースにして色紙と飾紙をつけてつまよつじのようなものたててそこにみかん？ダイをぶつくりさして水引でとめて出来上がり。それにボール紙をあてビニール袋に入れて、紐で留めて出来上がり。企業秘密だが一日千個が生産目標。特、大、中、小、四種類車用というのもあった。

市場には出さないで直接お店におろすそうです。余計な話ですが、庄司さん、お母さんが社長さんで、ご主人は五年前に亡くなった。色白のまるいおばちゃん、仲良しになった。私と同じ年で愛子から弁当つくって仙台市の敬老パスで仙台駅経由でここに勤めにやってくるそうです。彼女に教えて私もやって見ました。さ

て、本番の弁当を永谷園のお茶づけでした。仕事が忙しいから上等な弁当は出来ない。ゆつくり食べる暇もない。立派な部屋でない作業台の上で牛乳でつけたたくわんのおこころでお茶漬けをさらさらとかけこんだ。さて幸五郎の本番のひと筆書きは「**来るといはよきとしてあねなわすく**」とかきました。この作業場も女ばかり、そのパワーには幸五郎も圧倒されてしまいました。今日、いいもの見せられたり、ギヤラもらって幸五郎の宣伝をテレビでもらっておれ幸せだナーすみませんね。

長野に行ってきました

十月も末の三十日、長野で「協同」というテーマの勉強会があるので着物を着て、ソフト帽子をかぶって行って来ました。長野ははじめてです。七時四十分仙台発、田尻の佐々木陽悦さんと一緒に、あつというまに大宮。十分の乗り継ぎで長野新幹線で十時半長野についた。駅を出てスケッチブックを車中に忘れてしまった事に気がついた。駅前に出た。新潟地震の募金活動の宣伝カーが鳴っていたが仙台よりは静かです。善光寺と長野オリエンピンク。長寿日本一。それと田中康夫知事しか頭になかない。六八〇円のチャームを食べていたら、集合の市民会館の大ホールで、住みよい協同のまちをつくらうと、いつ、全体会がはじまりました。十メートルのわらじが出てビックリした。ビデオではあったが7年に一度という御柱まつりは豪快だ。大きい長い杉の木が上からどっと押し流され